彙　　報

一、會員研究發表會　昭和十五年十一月二日午後一時半より東京帝國大學法文經第二號館第三十七番教室に於て本會會員研究發表會を開いた。發表希望者が多かつた爲め、すべての希望者に發表の機會を與へる事が出來なかつたのは遺憾であつた。また時間の都合上一人の發表時間を二十五分以內、質問時間を五分と制限したため、發表者には時間が短かすぎてお氣毒であつた。會は甚だ盛んで、聽衆百七八十名に及び、會場が狹ますぎた觀があつた。小倉副會長の開會の辭の後に、次の發表がなされた。

「こよみ」の語源につきて　久保秀次郎氏

「こよみ」を「木讀み」より來るものと解する所謂一音一義說による語源解釋である。

國語に於ける文章論とセンテンスの形式　德田政信氏

國語學に於て新しい方法によつてその文法論を建設することを要請したものであつて、新しい方法による國語の句表示形式研究の一個のプログラムである。

漢字の科學的研究　水谷龜三郎氏

漢字に於ける日、月、山、川、鳥、馬等の象形文字であることの明白なるもの以外の字の字源が何物の形態であるかを研究し、之を人體を根幹として發達したものとなす說である。

日本語の母音と子音の性質　宮內玉子氏

日本語の音を「言語研究」第六號所載の同氏論文「母音の性質について(序報)」(三九頁以下)に述べられた方法により合成して、之を實驗的に再成したものを聽衆に聽かせた。

英語の亂雜と日本語の亂雜　岡野久胤氏

兩語の外來語の混入による亂雜を比較研究して、國語をこの亂雜より救ふべしとの論。

司會者　本會副會長小倉進平氏。

一、山本有三氏及び白水社の好意により振假名の研究のため本會に寄附せられた金參百圓は、同研究のため渡邊綱也氏に交付せられる事に決定した。

一、昨年七月以來應召中であつた本會幹事木村彰一氏は同年十一月十二日無事歸還。

一、「言語研究」第七號は昭和十五年中に發行の豫定であつたが、最近の印刷難のため到底年內に間にあはず、やむを得ず第八號と合册にする事にしたのです。會員諸氏には申譯がない次第ですが、その間の事情を御諒察の上、御海容願ひます。

一、スウェーデンのウプサラ大學圖書館の依頼により、同館發行の言語學關係出版物と「言語研究」とを交換する事となつた。

會計報告 (昭和十五年十二月三十一日現在)

			圓
收入	寄附金		200.00
	銀行利子		55.89
	會費收入	振替貯金ニテ(利子共)	1368.45
		現金ニテ	175.00
計			1599.34
支出	雜誌代(1號ヨリ6號マデ)		1803.42
	振假名研究費		100.00
	講師謝禮		50.00
	郵稅		148.79
	人件費		29.54
	雜費		90.55
計			2222.30
前金繰込			2362.72
差引殘高			1739.76
但內譯	銀行預金		1656.96
	郵便貯金		60.40
	振替貯金		21.87
	現金		.53

評議員　橋本進吉 ㊞
幹事　高津春繁 ㊞
幹事　木村彰一 ㊞